めぐってみませんか？

丹後震災をひきおこした郷村断層

昭和2(1927)年3月7日午後6時27分、まだ雪に覆われていた丹後地方を直下型の地震(推定マグニチュード7.3)が襲いました。この地震では3000人近くの方が亡くなり、1万棟以上の家屋が全壊・全焼するなど壊滅的な被害となりました。

震源地の京丹後市網野町郷では、地震により地面に約13kmにわたり断層（割れ目やズレ）があらわれました。この郷村断層は、垂直方向だけでなく水平方向にもずれていてめずらしいことや、地震の恐ろしさを伝えるため、昭和4(1929)年12月に国の天然記念物に指定されています。

地震発生直後の写真 『奥丹後震災誌』より

現在の郷村断層〔小池地区〕

現在の郷村断層〔樋口地区〕 ※覆屋の外から見学できます。

開館日　月曜日・木曜日・土曜日
（ただし年末年始は休館）

開館時間　9:30～12:00 ・ 13:00～16:00
（午前の入館は11:30まで）

入館料

大人	小・中学生	小学生未満
190円(120円)	90円(50円)	無料

※（ ）内は15人以上の団体料金
※障害者手帳をお持ちの方とその介護者1人は半額(手帳を提示ください)

駐車場　無料（約15台）

郷土資料館へは…

◆車で　京都縦貫自動車道京丹後大宮ＩＣから北へ約30分(約13.6 km)

◆電車で　京都丹後鉄道宮豊線「網野駅」下車、徒歩約35分（約2.2 km）

◆バスで　丹後海陸交通（丹海バス）「郷」停留所下車、徒歩1分

〒629-3133 京都府京丹後市網野町郷55番地
TEL・FAX　0772-72-4600
URL http://www.city.kyotango.lg.jp/kyodoshiryokan/
京丹後市立郷土資料館　検索

2019.03

京丹後市立郷土資料館

HISTORICAL MUSEUM

館内のご案内

京丹後市網野町に伝わる浦島伝説に登場する「しわ榎」です。

①養蚕と織物

丹後地方では、昭和20年頃まで盛んに養蚕が行われていました。蚕を育てその繭から生糸をつくり、機にかけられるまでを、道具とともに展示しています。

丹後地方で織られている絹織物「丹後ちりめん」は丹後の伝統産業のひとつです。

②農耕の道具

農作業が機械化されるまで使われていた道具〔農耕具〕を中心に展示しています。

③学びと遊び

明治から大正・昭和にかけて、小学校で使われていたオルガンや机、教科書などのほか、そのころの子どもたちの遊び道具を紹介しています。

④しごとの道具

漁業や商売、ものづくりなど“しごと”の道具を展示しています。

～郷土資料館の歴史～

昭和 42(1967)年、旧網野町木津公民館が中心となり、地域の家々から日々失われゆく民具などの資料を収集し、木津小学校(昭和 21 年建築)の一室で「民俗資料室」を始めました。

昭和 52(1977)年に、廃校となった木津小学校の校舎で「網野町郷土資料館」として開館し、これ以降、旧網野町内および各小学校で収集されていた資料など、さらに広い範囲で収集・保存が行われるようになりました。

平成 16(2004)年に網野町を含む丹後６町の合併により京丹後市に引き継がれ「京丹後市立網野郷土資料館」と名称を改めました。その後施設の老朽化に伴い、旧郷小学校校舎(現在地)に移転、平成 30(2018)年４月に「京丹後市立郷土資料館」として再開しました。

京丹後市立郷土資料館では約 12,000 点の資料を収蔵し、民俗資料を中心に約 1,000 点を展示しています。

⑤くらしの道具

昔はどこの家にもあった、なつかしい“くらし”の道具を展示しています。

⑥丹後震災コーナー・企画展示スペース

今から約90年前、昭和2(1927)年に起きた丹後震災の写真パネルを中心とした資料を展示しています。

また年に数回、企画展示を開催しています。

地震後に発生した火災により溶けて固まったお金